



【第44号】 昭和36年5月15日発行 非売品 発行所 国見町公民館 発行人 佐藤 善次郎 編集人 鈴木 美一 印刷所 宇佐美印刷所

町議会の畜産視察記 (一)

畜産行政の強化推進

曲り角にきたといわれる農業経営の改善について、町当局としては新春早々より各種講習講演会を開き、普及研究であつたが、町議会においても重大問題として取り上げ、先日町議会において、畜産行政の強化を推進するとの発言あり、且目下国会で審議中の農業基本法の成立と相まって、町民の農政の大いに研究を要するものとなつた。このときに、協議会と畜産

経営の先進地を視察することになった。選ばれたところは、東京近郊武蔵野市の片井木氏の養豚経営と神奈川県座間町の中央養鶏農協同組合の二つで以下はその視察記である。

△オートメ化で年間三千頭の出荷▽

四月十二日夜、藤田駅第一行は大沼議長を始め全議員、佐久間助役、能坂経済課長、中村庶務主任、明日からの強行軍にそなえて、極力精力の消耗を抑え、且つ鋭気の蓄積に努める。

翌十三日朝、電車暴走事件で有名な三鷹駅で下車、バス十分で片井木氏宅に着く。広い敷地、住宅の周り一面の豚舎である。一筆に小豚は五十頭大豚二十頭入る豚舎が五十りと並び、更に拡大工事中である。豚は全部ねたまで、ブウと鳴くのは一頭もみ

まだ眠つてゐるのかと思つてよく見たが、みんなおぼろめである。次に飼料を見て驚いた。十立方のシロにコッペパンをつぶし、そばにビスケット袋が山と積まれていて、人間並みの食物を喰ひつぱいにあたえられては、さすがのブウもおとなしくならざるを得ないのだ。

片井木氏四十五才位の説明によると、現在の飼育数八〇〇頭、年間三〇〇〇頭出荷が目標である。飼育は全部機械化され、片井木氏一人だけでつづけている。飼料としてパン、ビスケット、味素の粕を主とし、タンクで水に溶き、七馬力のモーターで各舎に送る。敷物は全草刈り草、コンクリート床は水でよく洗い清められている。豚舎は常にきれいで、スライターの操作で、殆んど手間がかからぬ。居室は豚に囲まれているが、臭いもせず、ハイ

明るい交通読本 (四)



「あつちやないなあ」といふことばはよく使ひます。道路通行によつて、車の運転者は歩行者に対して、また、歩行者は運転者に対して「わかつちやないなあ」と考へてゐるようです。お互いの立場をわかつてくれ、お互いの立場を尊重しあい、譲りあつてこそ、交通の安全と円滑は保たれ、交通事故は防げると思ひます。

五月十一日、全国一斉に春の交通安全運動が行なわれています。その運動のなごみとなるのは次のことばかりであります。

一、交通について、車も人も歩行者もともに譲りあひと協力の関係をしつかりつゝのこと。

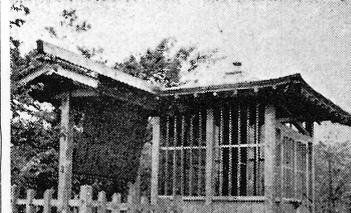
二、運転者の側は、無理な仕事や、無免許運転、よつぱら、運転をさせないことが必要です。

三、道路は広く、道路にむやみに商品その他物を置かず、自動車は道を車庫代り、自動車は必ず車庫に入れること、そして交通のしやまになる木の枝は、部署と一致協力して除くようにしましよ。

◎農繁期の火災予防にとめましよう ◎春季交通安全運動旬間

国見町部落会長名簿

部落名	班数	世帯数	部 落 会 長
大町	6	79	◎藤田 善次郎
北町	10	94	◎藤田 善次郎
南町	9	85	◎藤田 善次郎
東町	6	77	◎藤田 善次郎
西町	7	90	◎藤田 善次郎
北南町	7	112	◎藤田 善次郎
北西町	4	94	◎藤田 善次郎
北南西町	2	16	◎藤田 善次郎
北南西北町	3	22	◎藤田 善次郎
北南西北南町	4	33	◎藤田 善次郎
北南西北南東町	4	43	◎藤田 善次郎
北南西北南東中町	4	67	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下町	4	68	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東町	5	84	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中町	5	975	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下町	5	54	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東町	6	44	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中町	6	59	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下町	7	54	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中町	7	59	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下町	8	50	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東町	8	35	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中町	8	35	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中下町	53	452	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中町	9	61	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中下町	9	36	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中町	10	43	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中下町	10	90	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中町	11	41	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中下町	11	21	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中町	12	51	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中下町	61	462	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中町	9	68	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中下町	9	59	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中町	6	67	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中下町	6	57	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中町	34	375	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中下町	4	29	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中町	4	15	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中下町	2	25	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中町	2	35	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中下町	4	20	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中町	4	195	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中下町	22	254	◎藤田 善次郎
北南西北南東中下東中下東中下東中下東中町	47	2,459	◎藤田 善次郎



みんなのなつとくで 庇蔭樹の伐採

武田 新石工門

長い間の懸案であり、誰もが口にはするがなかなか実行できない越境樹木の伐採について、今回わが部落では、部落民総意による断行で、大好評を博し、これが動機となつた。次々と他の慣例や陋習の改善に拍車をかけ、部落の和をたらしめ結果となり、みんな大喜びである。

年末に自発的に処置すること

二、耕地、宅地を問わず、境界線上垂直とする。

三、危険なものは今秋迄に所有者が伐採すること。実行なき分には、部落会が明春専門家を雇ひ、その経費を所有者が負担すること。

四、町道(トラック道)は地上1.5〜2尺を最少限度とし、リヤカー道は地上1丈以上とする。

五、境界線より二尺以内にある、苗木となる樹は伐採すること。

この仕事は容易ではないが、部落一致の協力があれば簡単である。万一不成功に終れば

もいない、鳴きこえもきこえないという、まことに驚くべき光景である。

使用人としてトラック運転手三人居り、飼料集荷が主任務である。一頭の飼料代が三〇〇〇円で、仔豚代、手間代一切を差し引くと純益一頭一〇〇〇円である(この三〇〇〇円はすべて厩舎に充てられ、厩舎の維持に充てられている。改良に充てられていない。)

足と幸福のかまきりのように見え、残パンが大量に購入出来る。大東のまねは出来ない。多頭飼育、手間をかけたくない。創意工夫、儲かる農業経営などの実状を見聞し、やれば出来るという説教を深め、草飼飼育などを頭にうち、一頭厚利を申し述べ、養鶏場へ向つた。(態変化)

部 落 の 運 営 、 会 館 建 設 、 農 産 の 開 発 も 目 的 に なる、い わ ば 互 譲 と 協 力 の 精 神 が 出 発 し 実 行 し た こ の 結 果 は、 予 期 以 上 の 好 成 績 で、 民 間 一 先 ず 良 かつ た の 連 発 で あ り、 先 ず 里 道 は 部 落 議 決 会、 又 明 春 は 里 道 の 復 旧 作 業 を す る こと と 申 せ ず、 祝 杯 を 酌 み 合 わ せ て 散 会 し た。

(森江野第三部落会長)

大津町長功勞章を受ける

本町消防団最高大津利一氏は、消防団として最高殊勲章ともいわれる「永年勤続殊勲章」を国家消防庁長官から受けた。

(写真左胸上部)

た氏は次ように語つた。



鶏痘予防接種について

皆さんのおかげでこの光榮に浴することができました。これが単なる永年勤続だけでなく、無火災、無事故の表彰になるよう努力したいと存じます。わが町の火災はたいもい火元の注意から起つたものであることを考え、町民皆様の一段のご注意をお願いいたします。

伊達管内十日公民館連絡協議会では、本月十日公民館町役場で総会を開き、役員改選の結果、当公民館長佐藤善次郎氏は会長に選ばれた。尚藤田小学校長古川松太郎先生は理事に選ばれた。

初夏から秋にかけて鶏痘(蚊ぼろ)が流行し発育中のヒナ、産卵中の成鶏や大きな損害を与えますが、この伝染病を未然に防止するためには、要領を必ず予防接種を行います。詳しいことは農務課又は農業改良普及所に御相談下さい。

イ、接種対象となる鶏 昭和三十三年秋ヒナ 昭和三十六年春ヒナ

ロ、接種の時期 五月下旬〜六月月上旬

ハ、接種量

成 鶏 〇.一cc
中ヒナ 〇.二cc

ニ、接種の部位 中雛以上の接種部位は比較的羽毛の多い股の外側の羽毛を直径一、五cm×二、五cm位抜き取り、フラシに含ませた予防液を毛穴に浸み込ませる。接種後三週間位で体内に抗体ができて感染を防ぐ力が出来る。

佐藤館長郡公連会長になる

昭和35年度大豆増収競技会最高位者の耕種概要

収 量 408.5 kg

国見町大字藤田字北65番地 八 島 昌

出品圃場 大字山崎字上耕合

- 品 種 革新1号
- 播 種 期 6月10日
- 前 作 大麦 関取3号
- 畦巾、株間 75.7cm × 30cm 3.3m2(坪当り) 14.4株 (2尺5寸)(1尺)
- 播 種 量 10アール当り 5 鈔
- 施 肥 量 (10アール当)

種類	硫	安	過	石	溶性磷肥	硫酸加里	荒木灰
施用量	1.5 kg (4.7)	18.8 kg (5.7)	3.0 kg (8.7)	11.3 kg (3.7)	5.6 kg (15.7)		
時期	第1回	培土	左	同	左	同	第2回
培土	第1回	培土	6月25日	第2回	培土	7月20日	
除草	第1回	培土	8月中旬(手取)	第2回	培土		
除草	第1回	培土	7月上旬	第2回	培土	7月下旬	
除草	第1回	培土	8月上旬	第2回	培土	8月下旬	
除草	第1回	培土	10月24日	第2回	培土		

- 7、培土及び除草
- 8、病虫害防除
- 9、收穫
- 10、改善の重点事項
 - 播種は妻の刈取及び発芽後5〜7日目頃になるようにすること
 - 株数は増加
 - 肥料は早く施し、しかもできすぎない量とすること
 - 第1回の培土を早く行うこと
 - 第2回の培土をシロシロにすること(補種を行ない、全体としての収量の増加を図る)
 - 第3回の培土をシロシロにすること

